

バスケットボールは人生

ジーク フェーガン

こんにちは、と言うより、やあ、みんな！ と言った方がいいかな。まずは自己紹介をしたいと思います。名前はジークと言います。テキサス州、ヒューストン出身です。主に今治北高校と他のいくつかの学校でALTを務めています。僕を表す三つの単語は、バスケットとゴールデンレトリバーと肩バラ肉のBBQ。今回はその中の一つ、バスケットボールについて書きたいと思います。バスケットは今までにつくられてきた中で最も素晴らしいスポーツです。（大げさではありません）僕が人生で最も愛するものの一つです。そのバスケットを通じて、僕は地域の皆さんと交流することができています。そのことについて書いていきたいと思ひます。



バスケットをこよなく愛する僕が、今治に着いてまずしたこと、それはもちろん今治北高校バスケット部を訪れることでした。以来、僕も練習に参加させてもらっています。試合のときには、熱狂的なファンになります。そうして僕は、バスケット部のみんなのことを徐々に知ることができました。期待していた以上にバスケットの練習ができるというおまけつきです。試合の応援に加わることで、彼らの家族とも顔なじみになりました。そして、性格や育ってきた環境など、彼らのことをより深く知ることができました。NBA について語り合える仲間もできました。勝利に歓喜する最高の瞬間を経験することもできましたし、負ける悔しさ、3年生には避けられない最後の試合の切なさもまた、ともに経験させてもらうことができました。バスケット部のみんなと一緒に経験したこと全てが僕の宝物です。この何物にも代えがたい経験を、僕は一生忘れることはないでしょう。

おっと、ちょっと感傷的になってしまいましたね。そんなときは深呼吸、深く吸って、深く吐いて。OK! すべてのALTが心に留めておかなければならない大切なこと、それは、その地域の国際交流の役割を担っているという自覚です。文化的な交流を育むためには、地域の皆さんと触れ合うことが大事だと僕は考えています。そして、バスケットを愛する僕にはバスケットのゴールが必要です。ですから、僕も参加できる地域のバスケットクラブがあると知ったときは、そのチャンスに飛びつきました。僕がチームに参加することでどんなことが起こるのか、僕自身まったく予想していませんでした。それはクラブの皆さんも同じだったと思います。おそらく、今もまだわからないままです。しかし、それでも、IBC（今治バスケットボールクラブ）に入って約10ヶ月、地域の皆さんとの交流が深まったことは確かです。会社員の方、フィリピンから製造見習いに来られている方、大学生など、さまざまなメンバーがいます。学校に仕事に行き、終わればまっすぐ家に帰るといった単純な繰り返りに陥ってしまいがちなALTの僕にとって、このクラブはとてとても大切なものです。外の世界と切り離された日々はとてとても孤独です。だから、学校外で地元の方とつながりが持てることは本当にありがたいことです。

もう一つ、バスケットを通じて得られた素晴らしい機会がありました。3x3のトーナメントに出場することです。ご存じない方のために説明すると、3x3とは、通常5人でプレイするところを、三人でプレイするバスケットのことです。コートは半分だけを使用し、ボールは女性用の公式ボールを使います。両方のチームが同じゴールを狙うことになるので、ゲームのペースはかなり速く、通常の試合よりも、シュートにかけられる時間が短くなっています。年に数回、松山市で3x3のトーナメントが開催されています。僕は、他のALTと一緒に去年から大会に参加しています。大会には、愛媛県全域から多くの方々が参加しています。ですから、色々な地域のさまざまな立場の人と知り合うことができます。また、通常とは違った形式でプレイできるので、楽しくて興味深い経験となっています。

こうして考えると、バスケットボールは僕にとって単なるスポーツにとどまりません。落ち込んでいるときに行くことができる場であり、沈んだ気分を上げてくれるものでもあります。日々のストレスや、定期的にやって来るもっとも深刻な問題に対処する手段なのです。ありがたいことに、バスケットを通じて出会ったみなさんは、本当に素晴らしい方々ばかりで、辛いときに彼らの存在がどれほど励みになったかわかりません。彼らはそのことに気付いていなかったかもしれませんが、そのことに対する感謝の気持ちを、僕は忘れることはありません。最後に、僕を決して裏切ることのないバスケットの古いことわざを紹介して締めくくりたいと思います。ボールは愛、ボールは人生。あ、ゴールデンレトリバーのセリフみたいになってしまいましたね。

訳: 小越二美 (Fumi Kogoe)